

少し前になるが6月5日から11日までシンガポールに出張した。滞在中に気づいたことが4つある。

まず、シンガポールは、その立地条件から衛星より海底ケーブルの敷設に熱心なことが分かった。現在、海底ケーブルの上陸地点は3カ所に分かれており、1カ所は、同国西部のTuasが「SeaMeWe-3」ケーブルの上陸地点になっている。この海底ケーブルは、ベルギーとシンガポール間、シンガポールとオーストラリア間を結んでおり総距離39,000kmに達する。

2カ所目は、東部のTanahMerahで、「Asia-America Gateway」ケーブルの上陸地点になっている。この海底ケーブルは、東南アジア諸国とアメリカを結んでおり、総距離20,000kmに及び

3カ所目の上陸地点は、東部のChangi Northで、ここは「EAG-C2C」ケーブルの上陸地点で、日本やフィリピンなどを結ぶ総距離36,500kmを誇る

今回のシンガポール滞在中に聞いた話では、今後10年以内に上陸地点を3カ所から6カ所に拡張する計画を練っているという。この背景にあるのは、国内に10Gbpsのプロードバンドインフラを構築してあまねく普及を目指すという政府の大方針がある。

次いで、シンガポール政府は、国民に対し未だに衛星放送の直接受信を禁止している。そのためかSingtel社が運用している衛星は、「ST-2」「ST-3」の2機にとどまる。しかも「ST-2」は、台湾の中華電信との共同所有衛星である。衛星放送ができないこともあり、Singtel社が特に力を入れているのは海上プロードバンドサービスである。一方、Singtel社は、2001年にオーストラリアの衛星通信事業者として知られるOptus社を買収して子会社にしたことで広大なテリトリーをカバーすることになり、国際レポートオペレーションにも力を注いでいる。

さらに、ホテルで見られる日刊紙「The Straits Times」でテレビ番組をチェックしてみると、地上波放送、ケーブルテレビ、IPTV、ストリーミングサービスの番組が載っており、それぞれユニークな展開を見せている。

地上波テレビ放送は7チャンネル編成で、政府出資のメディア企業であるMediaCorpのテレビ部門のみが行っている。シンガポールは、多民族、多文化社会なのでチャンネル別に使用言語を指定しているのが特色である。つまり、「チャンネル5」は英語、「チャンネル8」と「チャンネルU」は中国語、「Channel News Asia」は英語と中国語、「Vasantham」チャンネルはタミル語、「Suria」チャンネルはマレー語といった編成である。

ケーブルテレビはStarHub TVが、IPTVはSingtel TVが提供している。StarHub TVの番組を見ると「BBC」と「Hub Sports」が目玉である。一方のSingtel TVは、「Cartoon Network」「AXN」「Warner TV」などを中心にして提供している。

さらに、ストリーミングサービス事業者として、NetflixとViuが載っており主な番組内容が紹介されていた。Netflixの番組は、「Top 10 Movies」と「Top 10 TV Shows」というような大雑把な紹介になっている。

4つ目としては、カジノの存在が挙げられる。しかもマリーナベイ・サンズとリゾート・ワールド・セントサの2カ所にある。



写真1 シンガポールの地上波テレビ放送は、政府出資のメディア企業であるMediaCorpのテレビ部門が提供している。(出典:mediacorp.sg)



写真2 シンガポールには、マリーナベイ・サンズとリゾート・ワールド・セントサの2カ所にカジノがある。(筆者撮影)

人をつなぎ、地域をつなぐ 須坂の新しい拠点 -bota-

地域に暮らすすべての人にとっての「最高のサードプレイス」となることを目指した複合施設

※サードプレイス:自宅や学校、職場とは別の居心地の良い居場所

人をつなぎ、地域をつなぐ

働 × 交 × 学 × 育

はたらく まじわる まなぶ そだてる

写真3 Goolight社が制作した「人をつなぎ、地域をつなぐ須坂の新しい拠点-bota-」が「ケーブルアワード2023」のグランプリを獲得した。(出典:catv-jcta.jp)



写真4 日本衛星協会の「オリジナル番組アワード2023」の「グランプリ」には、WOWOWプライムが制作した「ドキュメンタリーシリーズWHO I AM LIFE ヴィクトリア・モDESTA (パイオニック・ポップ・アーティスト)」が輝いた。(出展:eiseihoso.org/@wowow who i am project)

マリーナベイ・サンズ・カジノへ行ってみたら、2階建てで（1階が喫煙可能エリアで、2回は禁煙エリア）約15,000平方メートルのフロアに500ほどのルーレット、タイサイ、クラブスなどのテーブルと大小2000台のロットマシンが並んでいた。カジノ内には、「Tong Dim」という中華麺が食べられる店があり、疲れたら一休みしながらヌードルを味わうことができる。

最後に、シンガポールと直接の関係はないが、6月8日のローカル紙「The Straits Times」に興味深い衛星の話が掲載されていた。米宇宙軍と米偵察局が「Silent Barker」と呼ぶ静止衛星をUnited Launch Allianceの「Atlas V」ロケットで打ち上げ、最新鋭のセンサーで中国やロシアの不審な衛星の動向を監視するというニュースである。切掛けとなったのは、中国が2021年に「Shijian-21」という衛星を打ち上げて、宇宙で機能を喪失した自国の衛星をロボットアームで捕獲して宇宙の墓場に移動させたという実績である。しっかりと「Silent Barker」衛星で常時監視をしていないと、いつ米国の衛星が捕獲のターゲットになるかわからないとの危惧を感じ始めているように思われる。日本にとっても他人事とは言えきれない面がある。

「ケーブル・アワード2023」

日本ケーブルテレビ連盟が7月20日に、第16回「ケーブル・アワード ベストプロモーション大賞」の受賞作品を発表した。「さまざまな地域のケーブル・コミュニケーション活動を支え、認知向上と各社の活動内容の共有を目的に、優れたプロモーションや施策を表彰する」このアワードの主な受賞作品は下記の通りであった。

グランプリ: Goolight社（長野県須坂市）の「人をつなぎ、地域をつなぐ須坂の新しい拠点 -bota-」

タイトルの通りこの作品は、長い間空洞化していた須坂駅前のビルを、地域に暮らす人々が有意義に集える多目的交流施設として再生させた意気込みと経営手腕が評価された。

準グランプリ: キャッチネットワーク社（愛知県刈谷市）の「映像でよみがえる。つながる。地域と共に歩んだ30年」

準グランプリ: ちゅぴCOM社（広島県広島市）の「ケーブルテレビだからできる！ちゅぴCOMはテレビでDX!」

特別賞: 京丹波町の「火の用心CMキャンペーン。感謝の300回SP。火災ゼロの町への挑戦」

「衛星放送協会 オリジナル番組アワード」

7月21日に東京・よみうり大手町ホールで「第13回衛星放送協会オリジナル番組アワード」の授賞式が開催された。今回、番組部門6ジャンルの最優秀賞作品の中から選出される「グランプリ」には、WOWOWプライムが制作した「ドキュメンタリーシリーズWHO I AM LIFE ヴィクトリア・モDESTA（バイオニック・ポップ・アーティスト）」が輝いた。この作品は、左足に障害を持って生まれ15歳で足を切断した後、自身の義足をアートに変えて表現活動を行っているヴィクトリア・モDESTAに密着したドキュメンタリーで、インタビューを中心に世界各地での活動ぶりを追った内容が高く評価された。

なお、各番組部門の最優秀賞の受賞者は、次の通りであった。

ドラマ部門: NHK BSプレミアム・BS4K制作の特集ドラマ「ガラパゴス」

ドキュメンタリー部門: NHK BS4K・BSプレミアム制作の「発掘ロストワールド、恐竜の聖地ゴビ砂漠」

中継部門: CSテレビ朝チャンネル1制作「羽生結弦アイスショー、プロローグ in HACHINOSE」

文化・教養部門: WOWOWプライム制作「ドキュメンタリーシリーズWHO I AM LIFE ヴィクトリア・モDESTA（バイオ

ニック・ポップ・アーティスト）」

バラエティ部門: 時代劇専門チャンネル制作「小椋佳 時代劇の仕事、特別番組 小椋佳の歌日記、前編・後編」

ミニ番組: キッズステーション制作「見上げてみよう、ぼくらのウチュウ」

編成企画部門: 日本映画専門チャンネル制作「24時間まるごと伊丹十三の映画4K」

番宣部門: スーパー!ドラマTV制作「S.W.A.T. シーズン5」の放送開始版番宣

上述した各部門の優秀賞に加えて、審査員奨励賞とCAB-J賞の受賞者が下記の通り決まった。

中継・審査員奨励賞: WOWOWプライム制作の「生中継! THE LAST ROCKSTARS Live Debut 2023, Tokyo-New York-Los Angeles」

編成企画部門・審査員奨励賞: スカイA/スペースシャワーTV制作「A-Golf」

CAB-J賞: GAORA制作「Airdog（空気洗浄機）」

最後に、吉岡忍審査委員長は、「世界の新しい次元に目を凝らしながら、そこをつかみ取ろうとする新しい放送人の意欲と苦闘に光を当て、テレビの次の半世紀切り開く萌芽に注目して審査を行った」とのコメントを発していた。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

ハイビジョン伝送・災害・報道・海外派遣



<SATCUBEアンテナの特長>

- 47cm x 30cm x 5.5cmビジネスバッグに入ります!
- SCPCモデル・Sat-Qモデル・各種あり
- 災害/報道/海外派遣映像音声伝送インターネット接続/ハイビジョン伝送可能
- わずか1分で通信可能組立不要・工具不要
- 衛星補足は内蔵ディスプレイのアシスト機能で素早く簡単
- 航空機対応可能バッテリーで運用可（約3時間運用可能）
- 運用中のバッテリー交換可（ホットスワップ対応）
- モバイル中継装置（TVU・Live U・スマテレ等）と連携可

SATCUBE

「驚愕の超小型平面アンテナ!」

スタンダードなSCPCでのSNGモデルに加え2020年7月に新しくスタートしたスカパーJ SAT社の新サービス「Sat-Q」モデルもラインナップ。お客様の運用にマッチした利用が簡単にできます。放送などのHD映像伝送・災害通信・海外通信・企業のBCP向けなど幅広く利用可能です。

Communications k.k. エーティコミュニケーションズ株式会社

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14
TEL: 03-5772-9125 <http://www.bizsat.jp>